

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所周辺海岸へ漂着した大きな軽石

Large pumice washed ashore at coasts around the Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University,
Shirahama Town, Wakayama Prefecture, Japan

久保田 信 (Shin Kubota) (和歌山県)
(京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所)

和歌山県白浜町に所在する京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所周辺海岸には様々な色の多孔質の軽石がしばしば漂着するが、大半は子供の手の平よりも小さなものばかりである(参照:久保田 2015, 図1)。これらには一生を漂流生活を送るエボシガイ類が付着していることもある。当該地区に過去十数年の期間中に、稀だが、大きな軽石3個が流れ着いたので今回紹介する。

全てこれらの大型の軽石には角張った所はなく、灰色か白っぽい色をしており、茶色や黒色ではなかった。また、これらの表面に付着生物が期待されたが見られなかった。この内1個の軽石(長径 190 mm, 重量 587.7 g)は瀬戸漁港に約1年前に流れ着き(図1左), 残りの2個(長径 160 mm, 164 mm; 重量 694.2 g, 724.5 g)は数年以上前に瀬戸臨海実験所の通称“北浜”へ漂着した(図1中央と右)。従って、当該地域に長径 20 cm で 1 kg を超える軽石が流れ着いたことはまだない。

大型の軽石(直径 260 mm, 重量 1870 g)が長崎県三和町で記録されているが、日本本土の海岸に漂着する軽石は 150 mm 程度以上のものは稀である(中西 2010)。また、石井(1999)はマリアナ諸島北部の海底火山からの噴火で流失した 5 mm から 20 cm の軽石が琉球列島に漂着したことや、長崎県津屋崎町で長さ 35 cm・重さ 2.5 kg の特大の軽石が漂着したことを記している。

引用文献

- 石井 忠. 1999. 新編 漂着物辞典. 380 頁+11 頁, 海鳥社, 福岡市.
久保田 信. 2015. 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に初めて漂着したニッパヤシの果実. 漂着物学会会報「どんぶらこ」in press.
中西弘樹. 2010. 大型の軽石の漂着. 漂着物学会会報「どんぶらこ」, (33): 7.

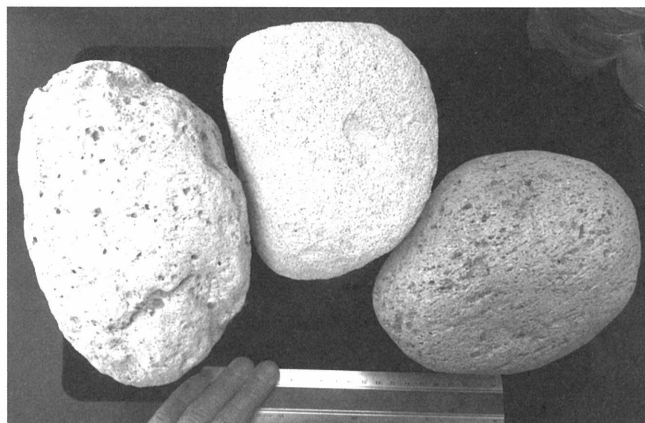


図1 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所周辺海岸に漂着した大きな軽石
(左:瀬戸漁港へ漂着; 中央と右:瀬戸臨海実験所“北浜”に漂着)